

本日の  
プログラム

売上向上の秘訣はモチベーションにあり!

(有)リバティー北海道 代表取締役 覚張 利彦 氏

札幌東ロータリークラブ

第2510地区

Rotary



## 一枚の名刺で地球を救う

日新堂印刷(株)代表取締役 阿部晋也 氏

1971年札幌市生まれ。札幌大学経済学部を卒業後、平成4年丸吉日新堂印刷株式会社に入社、平成8年同社二代目代表取締役に就任。当初は伝票印刷を主力としていたが、時代の変化に対応しペットボトル再生材名刺やバナナペーパー名刺など地球環境に配慮したエコ名刺の通販事業を中心に据え置き、「1枚の名刺で地球を救う」という挑戦を続け、顧客の8割は本州を中心とし、延べ人数は7万名を超えています。

営業マンでありながら対人恐怖症であった経験から、名刺を通して人と人のご縁を結ぶことに喜びとして、全国各地にて「人生は良き人との出会いで変わる」を合い言葉に、「大人の寺子屋日新堂セミナー」や「エコ名刺ユーザー交流会」などを開催しています。

また商品の点字付き名刺は札幌市内の障がい者施設の方々の自立支援や雇用創出の仕事として、支援の仕組みとして広がりを見せています。

エコ名刺事業を始めるきっかけは大手製紙メーカーの再生紙偽装問題でした。

社会が過剰な価格競争や激安コピー商品を求めるあまり、大手企業のコンプライアンスを無視した在り方に疑問を持ち、お客様に説明ができる紙を作ろうと模索していた時、ある講演会の講師からバナナの茎から紙が作れて貧困国に雇用を生み環境も守れる植物であるという話を聞き、すぐさま講師控え室に赴きバナナペーパーの作り方の教えを請いました。

しかし北海道の小さな印刷会社には莫大な資本や技術を要する製紙分野は未知の世界。海外とのつながりも無かった中、たまたま自社の名刺通販サイトからオーダーをいただいた中に各種の書籍やテレビで活躍される環境コンサルタント ペオ・エクベリ氏の名刺を見つけ、この人は何かを知っているかもしれない!という直感が湧き、すぐに連絡を取ってお会いすることができました。バナナの茎が地球を救える素晴らしい可能性を秘めた繊維であるという

話をしたところ、教育事業で支援しているアフリカザンビアの村があり、彼らは仕事が無く貧困で困っている。バナナ畑はたくさんあるので、その村でバナナペーパー作りができないか?という話になり、迷わず「できます!」と言ってしまいました。すぐにペオ氏がザンビアに飛んだところ、現地の方々も興味を持たれフェアトレードを基軸にしたアフリカザンビアバナナペーパープロジェクトがスタートしました。

越前の和紙工場の経営者の協力により紙が完成。2013年横浜で開催されたアフリカ会議(TICAD)で偶然お会いしたザンビアの環境大臣や大統領夫人にバナナペーパー事業に大変な興味をいただき、工場建設を打診されこれに着手。2015年現地にバナナ繊維工場が竣工。現在は大手商社もこのプロジェクトに参画され、名刺以外にもいろいろな紙製品を作る会社が集まってワンプラネット・ペーパー協議会を設立。フェアトレードラベル認証の紙を目指し挑戦した結果、2017年フェアトレードラベル認証機関であるWFTOによる厳格な基準をクリアし、日本初のフェアトレード認証繊維を利用した紙として登録されました。最近では学校教育現場でもフェアトレードについて力を入れるようになり、東京書籍発行の高校生の教科書にも事例として掲載頂きました。

2030年までに世界中の国が目指すと決意したSDGsの基準をすべてクリアする紙として、イギリスの化粧品メーカーLUSHやイオングループなど多くの企業で採用いただけるようになり、大量販売大量破壊ではなく大量販売大量保護につながるバナナペーパーの普及に奔走しております。

